



Concert violoncelle et piano Duo

フランスより来日～チェロ・ピアノデュオコンサート

2017.11.12 (sun.) 14:00～約1時間15分

会場：いんべアーツスペース/徳島県吉野川市山川町建石116 ※和紙会館より徒歩3分

入場料：1200円 ☆小学生以下無料

～シューマンからピアソラまで～

フラトレス：アルヴォ・ペルト	Fratres: Arvo Pärt
ルーマニア民俗舞曲：ベラ・バルトーク	Les Danses Roumaines: Bela Bartok
五つの民謡風小品：ロベルト・シューマン	5 chants Populaires: Robert Schumann
亡き王女のためのパヴァーヌ：モーリス・ラベル	La Pavane pour une Infante Defunte: Maurice Ravel
エレジー：ガブリエル・フォーレ	Élégie: Gabriel Fauré
ソナタ第2番：ドミトリ・ショスタコーヴィチ	Sonate 2ème mouvement: Dmitri Chostakovitch
チャイナ・ゲート：ジョン・アダムズ	China Gates: John Adams
ル・グラン・タンゴ：アストル・ピアソラ	Le Grand Tango: Astor Piazzolla



Stann DUGUET (スタン・デュゲ)

フランス、ヴォージュ県出身。6歳よりチェロを始める。ロシア流派、ルヴァズ・マツチャベリに師事。クラシックをはじめ、数々の実習からエヴァン・パーカー、ジョエル・レアンドルなどの音楽家と出会い、即興演奏の音楽の世界も発見する。

15歳よりフランス、ナンシー地方音楽院においてジャズ、ロック、現代及び伝統音楽など様々な要素を学び、自身の音楽に取り入れ、多くの公演を行う。

同音楽院修了後、20歳でギタリスト、ヤン・ヴァネックと出会う。ヴァネックのもと研鑽を続け、新しく豊かな音楽を吸収し、自身が求めていた音楽の真髄に近づく。その間ギターを習得し、名手ヴァネックの伴奏者として2013年タチ、日本にて公演ツアーを行う。その後、ベルギー人チェリスト、ハンス・マネス（マネスの師はモーリス・ジャンドロンとピエール・フルニエ）との偶然の出会いによりチェロの新しい境地を見出し、2014年ベルギー、ブリュッセル王立音楽院に進学。

現在はマリー・アラノクに師事。ヴァネックと過ごした5年間のプロミュージシャンとしての活動が、チェロへのさらなる探求心を強める。現在、同音楽院に在学しながら、物語語り手の伴奏、チェロ四重奏グループ

BruXello (<http://www.bruxelloquartet.com/>) の公演、独奏の公演も行う。様々な表現のもと、彼のエスプリは常に開放的、出会い、生き生きとしたものであり、彼の音楽を聴く人に美しいエネルギーを与えられるように試みる。



Thibaut LOUVEL (チボー・ルヴェル)

11歳からパリ地方の公立音楽院でピアノの勉強を始める。20歳まで音楽の勉強と並行して、パリ第6大学・理学部にて学ぶ。しかし数学の学士号を取得後、音楽に対する情熱が高まり音楽に専念する。そして、それまでに指導を受けた、ハキム・ベンチュアラ・ゴロピス、ガブリエラ・トルマ、レナ・シェレシエフスカヤ等教師のおかげで、相次いで、国家資格DEMを取得、また音楽院の上級課程において優秀な成績を収める。この期間、クレティユ・オーケストラのソリストとして、または《ピアノ&カンパニー協会》の一員として病院での慈善コンサート等、パリで数々のコンサートに出演する。

ブリュッセル王立音楽院でミハイル・フェールマンのもと音楽の知識を深めるため、パリを立ちブリュッセルに移る。ソリストの演目を徹底的に学び（2016年ベルギー・リエージュのコンクールにおいて受賞）、また室内楽に情熱を持つことが、彼の音楽領域を著しく広げる。

聴衆や他の音楽家と対等に《共有》することが、彼の芸術ビジョンの基礎である。かくして、チェリスト、スタン・デュゲとのデュオが生まれ、またロマン派音楽のトリオに始まり、ミニマル・ミュージックを代表する作曲家スティーブ・ライヒのグラン・アンサンブルに至るまで数々のグループと共演する。

他の多くのアーティストと同じように、より若い人たちに音楽を伝承することが、彼にとって音楽に関わる手段でもある。このように、フランスやベルギーの複数の音楽院で働いたり、ベルギー・ワロニー地方のジュネス・ミュージカルとともに、子供のマスタークラスの指導をしている。

お問合せ：（一財）阿波和紙伝統産業会館 ☎ 0883-42-6120 ※月曜休館